

平成 28 年 8 月 30 日

愛 媛 大 学

世界初 アレルギー炎症の抑制メカニズムを解明 ～アレルギー疾患の新規治療法の開発に期待～

愛媛大学大学院医学系研究科の山下政克(やました まさかつ)教授らの研究グループは、世界で初めて免疫を正常に保つ作用のある転写抑制因子^{注1)}Bach2(バック2)が、アレルギー炎症の発症を抑えるメカニズムを解明しました。これまで、Bach2 がアレルギー炎症の発症や悪化を防ぐ働きを持っていることは知られていましたが、そのメカニズム(背後にある分子機構)については解明されていませんでした。

今後、今回の研究成果を利用し、このメカニズムを制御する方法を開発することで、アレルギー疾患の予防法や新しい治療法の確立に繋がることが期待されます。

本研究成果は、英国科学誌「Nature Communications」に掲載され、オンライン版で公開されます(平成28年9月1日(日本時間))。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

記

掲載誌: Nature Communications

論文目録: Bach2-Batf interactions control Th2-type immune response by regulating the IL-4 amplification loop

(和文) Bach2 と Batf の複合体は IL-4 増幅ループを制御することで Th2 型免疫応答を調節する

共同研究者: 愛媛大学大学院医学系研究科 教授 山下 政克

愛媛大学医学部附属病院先端医療創生センター 助教 桑原 誠

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授 黒崎 知博

愛媛大学プロテオサイエンスセンター 教授 澤崎 達也、講師 武森 信暁

愛媛大学大学院医学系研究科 教授 安川 正貴

千葉大学大学院医学研究院 教授 中山 俊憲

公益財団法人 かずさDNA研究所 副所長 小原 収

注1) 転写因子: 特定の DNA 配列を認識して DNA に特異的に結合し、遺伝子の転写(DNA を鋳型に mRNA をつくる)を制御する一群のタンパク質。転写を抑制するものを転写抑制因子、活性化するものを転写活性化因子という。

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科

教授 山下 政克

TEL/FAX: 089-960-5274/5275

Mail: yamamasa@m.ehime-u.ac.jp

※送付資料7枚(本紙を含む)